

は つ く つ '96

栗東町話題の発掘調査



岩畑遺跡出土瓦

辻 遺 跡
下 戸 山 古 墳
下 鉤 東 遺 跡

栗東町教育委員会
財栗東町文化体育振興事業団

1997. 3 . 31

古墳時代の住居で
鉄鎌使用の祭祀
と
平安時代の小型仏像発見
—— 辻 遺 跡 ——



▲鉄鎌出土状況(上部炭化面は炉の部分)

辻・小坂西部土地区画整理事業に伴う第4次発掘調査が1996年4月から1997年3月にかけて行われました。

今回の調査では、縄文時代後期から江戸時代以降にいたるまで、幅広い時代の住居や墓、祭祀にかかわる遺構、水路、川、ゴミ捨て場などが確認され、注目すべき発見もたくさんありました。古墳時代の集落出土例では、現段階で近江で最古級(4世紀後半)となる鉄鎌が竪穴住居から出土しました。鉄鎌は竪穴住居東辺の中央から左右対象に北側に鉄鎌、南側に鉄鋸もしくは刀子と思われる鉄製品を意図的に置かれた状態で出土し、何らかの祭祀を行った跡と考えられます。

奈良時代の遺物としては、「寺」と線刻さ

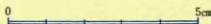
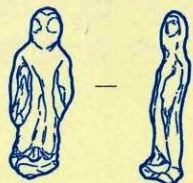
れた須恵器の坏が出土しました。この土器が出土したことは、この付近に寺院が存在したが、もしくは他の寺院から運ばれてきたなどいろいろな状況が想定できます。調査地の字名が「西八王寺」と呼ばれていることは、この謎を解く一つの手がかりとなるでしょう。

また、平安時代後期の建物に伴うと思われる柵のピットから、小型の銅製如来立像が出土したほかに、皿や杯を多量に埋納したピットが一箇所に集中して確認されました。これ何らかの祭祀跡でしょう。

▼「寺」刻書須恵器の坏(奈良時代後半)



▼小型銅製如来立像(平安時代後半)



柵と思われる柱の穴から
小型の銅製仏像が出土
▼



大規模古墳で葺石と埴輪が出土

— 下戸山古墳 —



下戸山古墳は琵琶湖南部の平野を望む低丘陵地上に築かれた古墳で、同じ丘陵上には北谷古墳群、小槻大社古墳群、地山古墳群などの多くの古墳群があるように、この丘陵地が古墳時代の前期から後期まで墓域として利用されていたことが解かります。

現在下戸山古墳は直径30m程の円丘部を除き共同墓地になっているため正確な規模や墳丘の形は不明でしたが、1993年には地形測量が実施され、円丘部の直径が50m、高さ7.5mで、地形からみて丘陵尾根が延びる西側には前方部が付く可能性が認められました。今年度はさらに正確な規模を確認するため、円丘部の南側周溝推定地の3ヶ所で発掘調査を行いました。その結果2ヶ所から墳丘基底部に残っていた葺石を確認し、墳丘規模は推定値とおりの直径50mと判明しました。また、出土した埴輪や土器片は4世紀の終わり頃のものでした。以上の調査成果からこの地域の首長墓は北谷11号墳→下戸山古墳→地山古墳（帆立貝形、90m）の順に築かれたことが推定されます。



古代の道路あとか？

—下 鈎 東 遺 跡—



下鈎東遺跡は、国道1号線を挟んで南北に広がります。従来の調査は、弥生時代の遺構が多数検出された北側が主でしたが、1月から3月にかけて初めて南側が調査されました。

古代の役所跡とされる手原遺跡の西に接する今回の調査地では、奈良時代から平安時代にわたる掘立柱建物4棟以上、奈良時代の柵列、平安時代の流路などを確認しました。

遺物には、建物跡で瓦の破片が数点見つかりました。当時の瓦は、役所や寺院で用いら

れますから、当地の建物は一般人の家屋でなく、手原遺跡と関連する建物と思われます。

注目されるのは、建物群の右側(南東)から10m離れた地点に展開するピット列です。ピット列からは、作られた時期を示す遺物はありませんが、平安時代の河道に削られるため、奈良時代頃に作られたと思われます。

ピット列には、丸い形や細長い形をした2種類があり、静岡県や奈良県で検出された道路状遺構に伴うピット列と類似していますが、はっきりとした用途はわかりません。

ピット列から南東へ60m離れた地点では、近世の東海道が通っています。古代の東海道は近世よりも北側にあったと推定されるため、その関連が考えられます。

このパンフレットの作成は、(財)栗東町文化体育振興会事業団主任技師・近藤 広、同技師・佐伯英樹、藤岡英礼が行いました。

はっくつ'96 栗東町話題の発掘調査

発行日 1997年3月31日

編集・発行 (財)栗東町文化体育振興事業団

埋蔵文化財調査課

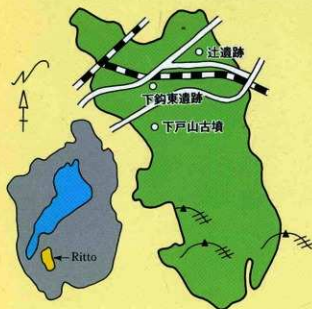
栗東町出土文化財センター内

〒520-30 滋賀県栗東郡栗東町下戸山47番地

TEL 0775-53-3359

FAX 0775-53-3514

印刷・製本 大津紙業写真印刷株式会社



遺跡の位置